

このまえは日ノ岡峠^{ひのおかとうげ}のはなしでしたが、今日は車石^{きょうし}のはなしをしましょう。車石^{くるいし}つてみたことはありますか？ おかしの名まえで車石^{くるいし}というのがありますが、そのおおもとなった石のことです。

江戸じだいの山^{さん}しなの旧東海道^{きゅうとうかいどう}には車石^{くるいし}というものがしかれていたのです。花崗岩^{かこうがん}という石^{いし}でできていて、車のわだち（車りん^{くるりん}をとおすためのみぞ）をほって、二列^{れつ}にならべたものです。大津^{おおつ}から三条^{さんじょう}にかけての約三里^{やくさんり}（十二キロメートル）にずらっとしかれていて、荷車^{にぐるま}が峠^{とうげ}をこえるときの手^てだすけになりました。

鉄道^{てつどう}がひかれるまでは、北海道^{ほっかいどう}や北陸^{ほくりく}の特産物^{とくさんぶつ}などはびわこをふねではこばれていました。それらは大津港^{おおつこう}からうしやうまがひくにぐるまで、山^{さん}をこえて京^{きょう}にはこばれました。しかし、逢坂峠^{おうさかとうげ}、日ノ岡峠^{ひのおかとうげ}があり、たくさんのもつをはこぶにはきけんでした。

まえにふれたえらいおぼうさん以外にも力^{ちから}をつくした人がいます。京都^{きょうと}の学者^{がくしや}だった、脇坂義堂^{わきさかぎどう}という人です。文化二年（一八〇五）にじぶんのおかね一万両^{まんりょう}をだして工^{こう}じをすすめたのです。これが車石^{くるいし}です。

車石^{くるいし}をしたことで、牛車^{ぎゅうしや}によるにもつはこびがうまくいきはじめました。歩道^{ほどう}は車道^{しゃだう}よりたかくして、歩行者^{ほこうしや}の安全^{あんぜん}をまもるとともに車^{くるま}のじやまを人がしないようにかんがえられていました。車石^{くるいし}は単線^{たんせん}だったので、午前中は京都市^{きょうとし}行きのもつ、午後は大津^{おおい}行きのもつというように、じかんをきめた一方つうこうになっていました。

あちこちで車石^{くるいし}の実物^{じぶつ}は見られます。また、日ノ岡^{ひのおか}には牛車^{ぎゅうしや}のオブジェ^{オブジェ}もおかれていますよ。

① なんのはなしでしょう？

② 車石^{くるいし}はなんという石^{いし}でできていますか？

③ わだち、とはどういういみですか？

④ 車石^{くるいし}はどこどここのあいだにしかれましたか？

⑤ 車石^{くるいし}はどのくらいのながさですか？

⑥ 脇坂義堂^{わきさかぎどう}はじぶんのおかねをどれだけだしましたか？

⑦ 車石^{くるいし}をつけた人はだれですか？

⑧ なぜ車石^{くるいし}はじかんさでいきさきがちがったのですか？

⑨ あっているものに○をつけましょう。

（ ） 車石^{くるいし}ではこばれたのは九州^{きゅうしゅう}のものだ。

（ ） 脇坂義堂^{わきさかぎどう}はえらいおぼうさんだった。

（ ） 車石^{くるいし}のよこの歩道^{ほどう}は車道^{しゃだう}よりたかかった。

⑩ おもったことを五行^{ごぎやう}でまとめましょう。

できばえは？



このまえば日ノ岡峠^{ひのおかとうげ}の話でしたが、今日は車石^{くるいし}の話をしましょう。車石^{くるいし}って見たことはありますか？おかしの名前で車石^{くるいし}というのがありますが、そのおおもとなった石のことです。

江戸時代の山科^{きやうかうかい}の旧東海道には車石^{くるいし}というものがしかれていたのです。花崗岩^{かこうがん}でできていて、車のわだち（車りんを通すためのみぞ）をほって、二列にならべたものです。大津から三条にかけての約三里（十二キロメートル）にずらっとしかれていて、荷車^{にぐるま}が峠^{とうげ}をこえる時の手だすけともなりました。

鉄道が引かれるまでのびわこは、北海道や北陸の特産物などを京都に運ぶ重要な水運になっていました。それらは大津港から馬車や牛車で、逢坂山^{おうさか}、九条山^{くじょう}をこえて京に運ばれました。しかし、大津側に逢坂峠^{おうさかとうげ}、京都側に日ノ岡峠^{ひのおか}があり、多くの荷物を運ぶには危険^{きけん}でした。

前回お話をえらいおぼうさん以外にも力をつくした人がいます。京都の学者だった、脇坂義堂^{わきさかぎどう}という人です。文化二年（一八〇五）に私財一万両を投じて工事をすすめたのです。これが車石^{くるいし}です。

車石^{くるいし}をしたことで、牛車による荷物運びがうまくいきはじめました。歩道は車道より高くして、歩行者の安全を守ると同時に車のじゃまを人がしないように考えられていました。車石^{くるいし}は単線^{たんせん}だったので、午前中は京都行きの荷物^{にもつ}、午後は大津行きの荷物^{にもつ}というように、時間を決めた一方通行になっていました。

あちこちの家で車石^{くるいし}の実物^{じつぶつ}は見られます。また、日ノ岡には牛車のオブジェもおかれていますよ。

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

② 車石の原料はなんという石ですか？

③ わだち、とはどういう意味ですか？

④ 車石はどこどここの間にしかれましたか？

⑤ 車石は全長どのくらいの長さですか？

⑥ 自分のお金という意味の二文字をぬきだしましょう。

⑦ 車石をつけた人はだれですか？

⑧ なぜ車石は時間差で行先がちがったのですか？

⑨ あっているものに○をつけましょう。

（ ）琵琶湖を使って運ばれたのは九州のものだ。

（ ）脇坂義堂はえらいおぼうさんだった。

（ ）車石のよこの歩道は車道より高かった。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できればは？



この前は日ノ岡峠の話でしたが、今日は車石の話をしましょう。車石って見たことはありますか？お菓子の名前で車石というのがありますが、そのおおもとなった石のことです。

江戸時代の山科の旧東海道には車石というものがしかれていたのです。花崗岩でできていて、車のわだち（車輪を通すための溝）をほって、二列に並べたものです。大津から三条にかけての約三里（十二キロメートル）にずらっとしかれていて、荷車が峠を越える時の手助けともなりました。

鉄道が引かれるまでの琵琶湖は、北海道や北陸の特産物などを京都に運ぶ重要な水運になっていました。それらは大津港から馬車や牛車で、逢坂山、九条山をこえて京に運ばれました。しかし、大津側に逢坂峠、京都側に日ノ岡峠があり、多くの荷物を運ぶには危険でした。

前回お話したえらいおぼうさん以外にも力を尽くした人がいます。京都の学者だった、脇坂義堂^{わきさかぎどう}という人です。文化二年（一八〇五）に私財一万両を投じて工事をすすめたのです。これが車石です。

車石をしいたことで、牛車による荷物運搬がうまくいきはじめました。歩道は車道より高くして、歩行者の安全を守ると同時に車のじゃまを人がしないように考えられていました。車石は単線だったので、午前中は京都行きの荷物、午後は大津行きの荷物というように、時間を決めた一方通行になっていました。

あちこちの家で車石の実物は見られます。また、日ノ岡には牛車のオブジェもおかれていますよ。

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

② 車石の原料はなんという石ですか？

③ わだち、とはどういう意味ですか？

④ 車石はどこどここの間にしかれましたか？

⑤ 車石は全長どのくらいの長さですか？

⑥ 自分のお金という意味の二文字をぬきだしましょう。

⑦ 車石をつけた人はだれですか？

⑧ なぜ車石は時間差で行先がちがったのですか？

⑨ あっているものに○をつけましょう。
（ ）琵琶湖を使って運ばれたのは九州のものだ。

（ ）脇坂義堂はえらいおぼうさんだった。
（ ）車石の歩道は車道より高かった。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できればは？

